

どの子にも分かりやすい授業を目指して

～UDLの視点に立った授業改善～

中 浦 小 学 校

I はじめに

1 研究主題設定の理由

当校の平成28年度重点目標は「すすんでやる子」である。学校生活全般における児童の実態として、受け身的な姿勢、何事にも挑戦しようとする意欲の低さが課題として挙げられる。学校教育目標「ぐんぐん伸びる子」、そして、目指す子ども像「学びとる子ー学力の向上と言語力の育成」を図り、今年度もUDLの視点に立ったどの子にも分かりやすい授業を展開することで、主体的・協働的に学ぶ姿を求め主題を設定した。

2 研究の基本的な構え

当校の「UDLの視点に立つ」ことを以下のようにとらえる。

- ①児童が安定して授業に取り組める環境を作る。
 - ・教室環境を整える。(掲示物をすっきりと、刺激を少なく、整理整頓等。)
 - ・学習ルールを明確にし、見通しをもたせる。
 - ・「分からない」と言える環境を作る。
- ②児童誰もが参加できる環境を作り、授業を構成する。
 - ・まず全員が参加→分かる→身に付ける→活用できるようにする。
 - ・1時間の授業の中に「問題提示ー課題ーまとめ」を位置付け、授業をシンプルにする。
 - ・参加できるようにするために「視覚化」「スモールステップ化」「共有化(伝え合い・学び合い)」する。

さらに今年度は、共有化(伝え合い・学び合い)を以下のような視点でとらえ、算数・国語のいずれかを選択し、実践を行った。

- ・1、2年生はペア活動を中心とする。
- ・3年生以上は、グループ活動で男女混合の4人を原則とする。

II 実践について

<第4学年の実践>

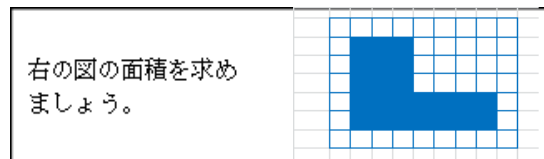
- 1 単元名 「面積」(5/11時間)
- 2 ねらい

複合図形の面積を、長方形や正方形の面積の公式を用いて求めることができる。

3 指導の実際

本時では、まず1時間の学習の流れを示した後、ウォーミングアップとして、公式の確認や方眼上の長方形や正方形の面積を求める問題提示をフラッシュカードを用いて出題した。

次に、以下のような本時の問題と課題を提示した。



かいだん型の面積を求めるには、どのようにすればよいだろうか。

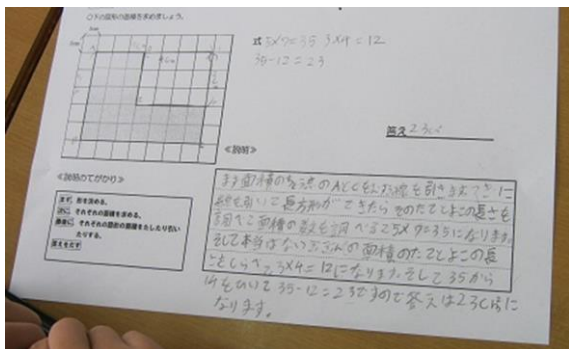
課題提示後、相談タイムを設け、解決の見通しをもたせるための話し合いをさせた。ほとんどの児童は、解決の糸口を考え、課題を把握することができていた。

その後の自力解決では、ワークシートに図と式、さらに説明を書かせた。主に以下の2つの考え方が出された。

<p>⑤</p>	<p>⑥</p>
$5 \times 3 = 15$ $2 \times 4 = 8$ $15 + 8 = 23$ A. 23 cm^2	$3 \times 3 = 9$ $2 \times 7 = 14$ $9 + 14 = 23$ A. 23 cm^2

これ以外にも3つの形に分けて求める方法、欠

けた部分を付け足して考える方法も出された。



自力解決後、ペア学習でそれぞれの考えをワークシートを基に説明させ、相違点を考えさせた。



ペア学習をすることで、自分の考えを修正したり、その後の全体発表で自信をもって話したりすることができた児童の姿を見ることができた。また、自分はどの考え方に属しているのかを確認し、それぞれのやり方に名前を付けることができた。



最終的に、全員が公式を基にして面積を求めることができた。

本時の終わりに以下のようなまとめをし、確認問題に取り組ませた。

かいだん型の面積は、長方形や正方形をもとにすることで求められる。

本実践における成果と課題について、以下に挙げる。

(1) ウォーミングアップ

- パワーポイントによる画像をテンポよく提示していた。どの子にも見やすく、長方形・正方形の縮尺も正確であった。
- 前時までの復習や公式が入っており、公式の大切さや効率よく求めることを実感することができるものであった。
- 「分かる」「できる」という児童の意欲喚起になっていた。

(2) 相談タイム

- どの児童にも見通しをもてる活動となった。
- △ よい発想を活かすために、つぶやきが有効となる。よい発想やキーワードをどう活かすかを教師が準備しておかなければならない。活かしたいものは、強調し、それ以外のもはその意見を誉める、といった対応で児童の意欲を伸ばしたい。

(3) ペア活動・自力解決

- △ ペア活動は必要とは限らない場合もある。「人の考えを覗いて見てごらん。」程度でも充分で、説明は書かなくてもやり方を考える方法もある。
- △ ペア学習は読むことが多い。むしろ話せるような訓練が必要である。

(4) 本時の問題

- 全員が自力解決をすることができた。
- △ 指導案に児童の実態を記述する。なぜ本時の展開になったのかが不明であった。
- △ マス目がない方が、多様な考えが生まれる。マス目がなくてもできる自信を付けられる。4年生は時には困難な問題を与え、切磋琢磨して鍛えることで成長が期待できる時期である。

(5) 授業構成

- △ UDLは確かに必要な視点であるが、算数は多様な考え、意見がもてるような授業構成をしていくことが大切である。
- △ 数学的な思考を伸ばすには、文字に書くだけでなく、説明することが重要。そういう授業の仕掛けをすることが今後の課題となる。

III 成果と課題